

平成 30 年 8 月 20 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03482

研究課題名(和文)「教育体験と社会階層」研究の新展開

研究課題名(英文) New directions in the study of "educational experience and social stratification"

研究代表者

中村 高康 (Nakamura, Takayasu)

東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・教授

研究者番号：30291321

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、すでに2013年度に実施された『教育と仕事に関する全国調査』プロジェクトの研究成果をさらに応用的に発展させ、従来は十分な実証的基盤を持ちきれなかった「教育体験と社会階層」という古くて新しいテーマについて、信頼性の高いデータに裏付けられた理論的展開を新たに目指そうとするものである。その具体的成果として、内外での学会報告・論文発表・成果の英文化、著書刊行、インターネット上での発信が行なわれた。

研究成果の概要(英文)：This study aims to new directions in the study of "educational experience and social stratification" based on ESSM2013(Survey of Education, Social Stratification, and Social Mobility in Japan, 2013). We dealt with several educational variables such as preschool system, bullied experience, educational consciousness, educational level of relatives, in relation to social stratification. Many findings from our project were published as papers, reports, or article on our web site. Our book is going to be published in 2018.

研究分野：教育社会学

キーワード：教育 社会階層 ESSM2013 教育社会学

1. 研究開始当初の背景

教育が社会的格差や不平等と関わっているという指摘は、国内でもこれまで再三にわたって指摘されてきた。しかしながら、SSM (社会階層と社会移動全国調査)、JGSS (日本版総合的社会調査)、NFRJ (全国家族調査) など従来の社会階層に関わる代表的な繰り返し調査研究においては、教育に関わる諸変数は十分に調査に組み込まれてきたとはいえない。このことは、学校生活の具体的な状況と社会階層との関連を分析することが、社会階層関連分野で実施された全国調査のデータでは十分にできないことを意味している。一方で、教育社会学の文脈で非常に頻繁に実施されてきたのは学校を通した生徒調査である。そしてこのような学校調査になんらかの形で社会階層変数を組み込むことにより、社会階層と教育の関連性が分析されてきた (樋田他 2000、尾嶋編 2001、苅谷・志水編 2004 など多数)。しかしながら、これらの研究が依拠しているのは学校通しの有意抽出データに基づくものであり、その分析結果の性急な一般化には問題があるといわざるをえない。そのうえ、学校調査であるために調査対象は児童・生徒が中心であり、彼らが学校体験を経た後でどのような位置 (階層論でいえば到達階層) にたどり着くのかを確認することはできない。また近年では、学校調査において社会階層に関わる指標を調査項目に組み込むこと自体が非常に困難になりつつあり、家庭における文化的な態度や行動をもとに「文化階層」などが代替的な階層指標として用いられているものの、階層指標としては正確性を欠いたものであることは否めない。こうした研究状況において、豊富な学校・教育変数を含んだ階層調査を実施することの意義は、社会学の階層研究においても、また教育社会学的な学校研究においても、非常に大きいといえることができる。申請者を研究代表とする『教育と仕事に関する全国調査』 (Survey of Education, Social Stratification, and Social Mobility in Japan, 2013、略称 ESSM2013) は、そのような問題関心のもとで実施された調査である。調査項目には、一般的な社会階層項目 (本人現職、初職、世帯収入、個人収入、15 歳時親職、など) に加えて、類例のない詳細な学歴情報 (父親、母親、本人、配偶者、子ども、きょうだいなど) および従来の階層調査では等閑視されてきた豊富な教育体験項目 (幼稚園・保育園経験、転校経験、学童保育経験、子ども時代の健康、中学受験経験、逸脱行動、いじめ体験、出席状況、大学受験、クラブ・サークル活動、教育意識など) が含まれているのが特徴である。全国無作為抽出による 30~64 歳の男女 4800 名を対象とするこの調査は、2013 年秋に郵送配布・訪問回収法によって実施され、最終的に 2893 名の有効回答を得ることができた。有効回収率は 60.3% であり、社会学的全国調査としては、

きわめて良好な回収状況となった。このことは、「教育体験と社会階層」というテーマの研究に求められていた、非常に信頼性の高いデータが得られたことを意味している。すでにデータセットは 2014 年初期段階で完成し、2014 年 9 月に日本教育社会学会において研究グループの複数メンバーがその第一次中間報告を行ったが、例えば、複数の子どもの学歴変数を用いたマルチレベルモデルによって学歴に対する家族独自の効果が見出されたり、豊富な教育意識変数を活用することで、様々な教育政策に対しておしなべてネガティブな潜在層の塊が析出されたり、いじめを受けた経験 (被いじめ体験) が将来の地位達成に対して及ぼす効果はかなり不明瞭であるなど、従来の知見を書き換える分析結果が徐々に明らかになった。しかしながら、分析の深度についてはまだ 2014 年の応募段階では大いに課題が残っていた。また、この調査結果の分析が潜在的に相当程度の規模の知的転換を迫るものになりうるとの期待はあるものの、この点についての理論的な考察・検討が十分に追いついていない状況にあった。

2. 研究の目的

そこで本研究では、ESSM2013 のデータ分析を基盤に据えながら、同時にこれらの成果を理論的に位置づけることに重点を置き、共同研究を進めていく。具体的には、以下の 4 つのポイントから実証的裏付けを持つ理論的問題提起を行い、それぞれの領域での研究上のブレイクスルーを喚起するような研究成果を作り上げ、発表することを課題とする。

3. 研究の方法

研究前半では、ESSM データの再分析を行ない、知見のブラッシュアップを図ると同時に、理論的・文献的なりサーチも行なうことで、知見の学術的な意義の明確化を図った。研究後半においては、研究成果の発信に力点を移し、研究論文や報告書論文の執筆、学会での発表、専門書原稿の執筆、原稿の英文化、研究成果の英語での発信を行なった。

4. 研究成果

本研究の知見は多岐にわたるが、詳細は『教育と社会階層 ESSM 全国調査からみた学歴・学校・格差』 (東京大学出版会、近刊) にて公表予定である。ポイントは二点ある。まず第一点は、教育に関する詳細な諸変数を分析に組み込むことによって、社会階層が教育に及ぼす影響は広範でありながら、実に様々な影響パターンがあることが理解できるということである。ESSM2013 のような教育体験項目をふんだんに盛り込んだ社会階層調査の意義と重要性を研究の文脈において明確化した。第二点は、教育に重点的に意識をおいた分析が社会学的分析の視点の転

換をもたらすことを明確にした点である。従来の社会階層論の理論的視点とはずれているからこそ、様々な理論的展開可能性を示すことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3件)

平沢和司(2018)「世帯所得と子どもの学歴前向き分析と後向き分析の比較」2015年SSM調査報告書 教育 pp.1-20.

須藤康介(2017)「小中高の学業成績と学校の勉強への価値づけ：認知的不協和による価値観形成」『明星大学教育学部研究紀要』7, pp.63 - 73.

中澤涉(2015)「日本人の意識から教育費の問題を考える」『経済セミナー』682, pp.45-50

[学会発表](計 3件)

古田和久「職業生活における学校教育の意義」(日本教育社会学会第67回大会(駒澤大学) 2015年)。

NAKAZAWA, Wataru (2015.8.) "Decreasing Population, Educational Expansion, and Inequality of Opportunity: Japan as a Low-Fertility Society," International Sociological Association Research Committee 28, Summer Meeting 2015, University of Pennsylvania.

荒牧草平「拡大家族とネットワーク」(日本教育社会学会第69回大会(一橋大学)課題研究2:格差・不平等研究の今後:教育・家族・階層 2018年)

[図書](計 3件)

中村高康・平沢和司・荒牧草平・中澤涉編(2018)『教育と社会階層 ESSM全国調査からみた学歴・学校・格差』東京大学出版会(近刊)

中村高康(2018)『暴走する能力主義 教育と現代社会の病理』ちくま新書

中村高康研究代表(2016)『全国無作為抽出調査による『教育体験と社会階層の関連性』に関する実証的研究【別冊】コードブック・基礎集計表』(科学研究費報告書)

[産業財産権]

出願状況(計 0件)

名称:

発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tknaka/survey> (和文)

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tknaka/english/national-survey> (英文)

6. 研究組織

(1)研究代表者

中村 高康 (Nakamura, Takayasu)
東京大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号: 30291321

(2)研究分担者

平澤 和司 (Hirasawa, Kazushi)
北海道大学・文学研究科・教授
研究者番号: 30241285

中澤 涉 (Nakazawa, Wataru)
大阪大学・人間科学研究科・教授
研究者番号: 00403311

古田 和久 (Furuta, Kazuhisa)
新潟大学・教育学部・准教授
研究者番号: 70571264

(3)連携研究者

吉田 崇 (Yoshida, Takashi)
静岡大学・人文社会科学部・准教授
研究者番号: 80455774

藤原 翔 (Fujihara, Sho)
東京大学・社会科学研究所・准教授
研究者番号: 60609676

多喜 弘文 (Taki, Hirofumi)
法政大学・社会学部・准教授
研究者番号: 20634033

日下田 岳史 (Higeta, Takeshi)
大正大学・人間学部・講師

研究者番号：30734454

須藤 康介 (Sudo, Kosuke)
明星大学・教育学部・准教授
研究者番号：00744749

小川 和孝 (Ogawa, Katunori)
日本学術振興会・特別研究員(PD)
慶應義塾大学・法学部
研究者番号：80734798

(4)研究協力者

荒牧 草平 (Aramaki, Souhei)
日本女子大学・人間社会学部・教授
研究者番号：90321562